

新年交流会に 70 名を超える参加

2010 年の新年交流会は 1 月 27 日 (水)、ニュートーキョー本店 9 階「ラ・ステラ LASTELLA」で開催され、70 名を超える方が参加されました。

初めに当会の杉原代表の挨拶に続いて各委員会からの活動報告を行いました。

懇親会では茨城県那珂市の小宅近昭市長よりご挨拶を頂きましたが、那珂市からは寺門義一副市長もご参加くださり、一同を元気付けてくださいました。乾杯の音頭は水戸市産業経済部観光振興課長の寫健氏にお願いし、にぎやかに始まりました。

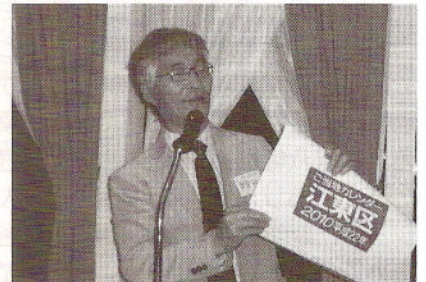
今回は特にアトラクションを設けず、会員相互の懇親の場として時間いっぱい交流していただきました。

また、ふるさと自慢のお酒として、武藤一男にかほ市観光課長より清酒「飛良泉」、寫健氏より清酒「水戸藩」、菊地通雄茨城県東京事務所次長より地酒、焼酎等を提供していただきました。



初参加の方の紹介や女性の参加者のスピーチで最後まで会話の弾んだ新年交流会となりました。

次回、夏の交流会は 7 月 27 日 (火) に同じ会場で開催する予定です。多くの皆様の御参加をお待ちしております。(会員交流委員長 野村 緑)



イザベラ・バードの足跡を辿る 5 月 15・16 日にシンポと文学散歩

元気・まちネット代表理事 矢口 正武

私は観光大使ではありませんが、地方の活性化を目指した活動を東京から行っています。今回は山形県での観光による活性化の具体例を紹介したいと思います。

今から約 130 年前の明治 11 年、イザベラ・バードというイギリス人女性旅行家が来日、東京から北海道まで通訳の伊藤青年を伴い、約 1,900km の道のりを 3 カ月かけて旅をしました。高梨健吉氏 (慶応大学名誉教授) の「日本奥地紀行」に詳しく書かれています。

梅雨の時期でもあり、新潟から山形に入り小国峠を越えるまでは大変な目に遭いながら、やっと宇津峠に辿り

つくことが出来ました。そこから眺めた米沢平野を「東洋のアルカディア (桃源郷)」と称賛しています。

その偉業を見つめ直すため、5 月 16 日 (日)、山形県南陽市のハイジアパーク南陽 (イザベラ・バードの資料が唯一展示してある) で「イザベラ・バードの日本奥地紀行—山形路を語る—」と題してシンポジウムを開催します。前日の 15 日 (土) には、彼女が辿った山形路を味わう文学散歩のバスハイクも実施します。

いずれ、東京から北海道まで「夢と冒険の道」として各地と広域連携を図りながら実現したいと思っています。すでに 2008 年 10 月、平河町の都道府県会館に於いて実現に向けた会議も行っています。

お問い合わせは、yaguchi.m@so-kk.jp (矢口まで)
<http://www.genki-machinet.com/>

「はこだて観光大使の会(仮称)」発足へ

(はこだて観光大使 浅田和幸)

在京の「はこだて観光大使」が集まって「はこだて観光大使の会 (仮称)」を 5 月 26 日に発足させる運びとなりました。「はこだて観光大使は全国で 180 人以上が委嘱されていますが、横の連絡がなく、持ち味を生かしきれていないため、相互の情報交換・交流を深めることで、

ふるさとの活性化に貢献しようという趣旨です。

函館市が今年 2 月、東京で開催したはこだて観光大使との情報交換会で、当会理事の川守田孝平氏が発起人となって呼び掛けたところ、30 人以上が趣旨に賛同し、参加を表明されました。

同様の集まりとしては、「水戸大使の会」(稲葉正臣会長) が先輩格で実績がありますので、アドバイスもいただきながら、意義ある活動につなげたいと考えています。